

日時：2019年2月19日（火）10:30-12:00

会場：湘南 15号館4階 会議室
高輪 3-1 会議室
清水 8212TV 会議室
札幌 N-204 第二会議室
代々木 4号館1階-4103 教室
伊勢原 3号館1階 研究室1-4
九州 本館 中会議室

テーマ：プロジェクトを育てる経験に学ぶー「人的支援」の役割・再考ー

講師：工学部 建築学科 杉本洋文 教授

参加者：計46名

（湘南28名、代々木1名、高輪5名、伊勢原2名、清水2名、熊本5名、札幌3名）

1. 13年間にわたるプロジェクト経験を振り返って（杉本先生講演、10:35-11:35 60分）

チャレンジセンター長の岡田先生よりご紹介があった後、杉本先生よりご講演いただいた。学長に時間談判をして直接予算を請求するところから始まったCAPでのプロジェクトは、杉本先生ご自身の研究体験を学生にもさせるというものであった。その中で、①学科の課題とチャレンジセンターの活動を連携させること、②社会的意義を持った活動にすることによって学生を社会の中で育成すること、③協働の意義を体感させること、リーダーになったからといってリーダーとしての素養があるわけではなく、育てる必要があること、④楽しく学ぶ、体験学習をさせること、⑤金銭、スケジュールなどマネジメントの実践をさせること、⑥ノウハウの継承（記録）の6つの必要性が述べられた。

2. 質疑応答・意見交換（11:35-11:55 20分）

講演を受けての質問で、「人的支援」に関して以下のような解答、意見交換が行われた。

- ・楽しく学ぶ杉本先生のプロジェクト活動において、活動内容のアイデアの提案者は学生である。
- ・リーダーとなる学生には解決したい悩みを積極的に情報公開させ、リーダーや企画担当者は積極的に交代し、小さな企画（食事の場所決めなど）でも多くの学生に次々と割り当てていくことで、個の能力を引き出して、学生自身の「役に立っている」感覚をもたせることができる。また、トラブルは大きな問題になるものでない限り、あえて事前に回避することなくトラブルに直面させることで、学生が自ら知恵を出して解決する体験ができる。
- ・活動にあってはプロジェクトの担当教員がもつゼミ・研究室に所属する学生だけが参加するわけではなく、担当ゼミ・研究室の学生も活動している。一方で、コアとなる学生を担当していることは強みにはなる。教員が個々に他学部・他学科の教員と連携をとり、プロジェクト活動をしやすくするような工夫があると良い。教員が学生に何かを伝えるときには、同じことを複数の学生に継続的に言い続けることで、幾人かの学生も教員と同じことを言い始めるようになって伝わっていく。
- ・地域の連携にあっては、抽象化をするのではなく、地域の〇〇さんの得意とすることと、学生たちの個々の特徴を把握し、つなげていくことが重要である。

3. まとめ

現代教養センター所長の成川先生より、「教育の東海大学」を目指す中で、今後ともコーディネーター・アドバイザーの協力をいただきたい旨が述べられ、閉会とした。

（文責：長田）